



部長
大谷 俊郎
慶應義塾大



監督
権田 哲也
慶應義塾大



H・コーチ
阪口 裕昭
慶應義塾大



A・コーチ
石田 剛規
慶應義塾大



A・コーチ
小高観津夫
慶應義塾大



A・コーチ
西戸 良
慶應義塾大



S&C・コーチ
木塚 孝幸
慶應義塾大



A・トレーナー
木畑 実麻
慶應義塾大



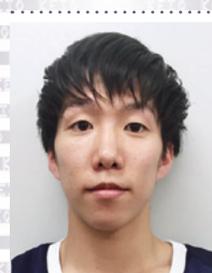
主務
林 源
慶應義塾
経済 4



学生コーチ
加藤 舜王
慶應義塾志木
政治 4



学生トレーナー
原 義裕
慶應義塾湘南藤沢
政治 4



12 こはら りく
小原 陸
(政治 3)
① G ② 168 ③ 67
④慶應義塾志木
⑤全ては4連覇のために。内部の意地見せませす



13 やまさき じゅん
山崎 純
(総合政策 2)
① G ② 178 ③ 75
④土浦日大
⑤4連覇目指して頑張ります!



14 たかだ あつき
高田 淳貴
(環境情報 2)
① G ② 187 ③ 83
④城東
⑤勝利に貢献できるよう頑張ります!



15 かねこ かける
金子 翔
(総合政策 2)
① F ② 187 ③ 80
④洛南
⑤4連覇へ向け全力で頑張ります!

主将



4 トカチョフ サワ
(環境情報 4)
① CF ② 192 ③ 86
④國學院久我山
⑤ For Win. Four Win.



5 たかはしこうしろう
高橋晃史郎
(政治 4)
① F ② 191 ③ 91
④慶應義塾
⑤臥薪嘗胆。悲願の勝ち越しへ。



16 いずみ ときお
泉 友樹雄
(経済 2)
① G ② 178 ③ 73
④慶應義塾志木
⑤チームに尽くします。



17 くどう しょうへい
工藤 翔平
(政治 2)
① G ② 183 ③ 78
④慶應義塾
⑤4連覇



6 どうもと あと
堂本 阿斗ディーン
(商 4)
① F ② 187 ③ 86
④慶應義塾
⑤歴史に名を刻む



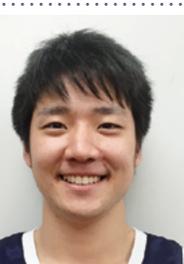
7 きむら よしき
木村 能生
(環境情報 4)
① CF ② 192 ③ 87
④東山
⑤挑戦



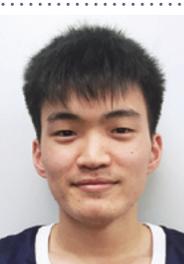
18 よしおかけいいちろう
吉岡慶一郎
(商 2)
① F ② 184 ③ 82
④慶應義塾
⑤全てはこの日の為に。



19 てらべ ゆうすけ
寺部 勇佑
(環境情報 1)
① SG ② 168 ③ 64
④洛南
⑤1年生らしく頑張ります



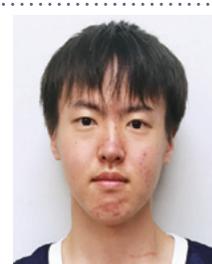
8 とば ようすけ
鳥羽 陽介
(環境情報 3)
① G ② 180 ③ 76
④福大犬濠
⑤勝ち越します!



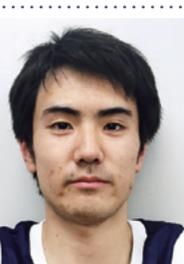
9 はら たくみ
原 匠
(環境情報 3)
① G ② 166 ③ 65
④近畿大付属
⑤伝統の一戦楽しみます!



20 こうたに ゆうへい
甲谷 勇平
(環境情報 1)
① SG ② 175 ③ 72
④東山
⑤絶対に4連覇します



21 やまもと じゅんぺい
山本 純平
(商 1)
① PG ② 179 ③ 66
④慶應義塾志木
⑤できることを全力で



10 きしき しゅうた
吉敷 秀太
(政治 3)
① F ② 178 ③ 72
④慶應義塾志木
⑤三度あることは四度ある。



11 さわちか ともや
澤近 智也
(環境情報 3)
① F ② 185 ③ 85
④高知学芸
⑤enjoy 起爆剤!



22 どうもと かい
堂本 魁リン
(商 1)
① SF ② 180 ③ 80
④慶應義塾
⑤チームの勝利に繋がるよう頑張ります



23 いわかた ゆうま
岩片 悠馬
(環境情報 1)
① PF ② 188 ③ 78
④広尾学園
⑤一生懸命頑張ります

MEMBER — 慶應義塾大学〈男子〉

氏名	学部	学年	ポジション	身長	体重	出身校	自己アピール
おおしま ひろみ 大島 拓己	政治	1	PG	166	60	岡崎	楽しんで頑張ります！
つのじゆうき 津野地有樹	政治	1	PF	183	80	慶應義塾志木	チームに尽くします
ふじしい ようすけ 藤井 陽右	政治	1	SG	176	66	慶應義塾	全力を尽くします
まえだ りゅうが 前田 琉我	経済	1	SF	182	77	慶應義塾志木	打倒早稲田！！
おおむら こうき 大村 航生	環境情報	4	副務			立正大付属	慶應義塾を背負って4連覇します。
はっとりしんたろう 服部信太郎	商	4	学連派遣			巣鴨	最後は正義が勝つ
やまもと せいた 山本 晴太	法律	4	学連派遣			慶應義塾志木	「10年分の想いをのせて。」
うのしんいちろう 宇野晋一郎	商	3	志高コーチ			慶應義塾志木	夫れ必勝の術、合変の形は、機に在るなり
おがわ しょうへい 小川 翔平	総合政策	3	学生トレーナー			大宮開成	ここまでできたら負けません。
かたぎり としや 片桐 俊哉	経済	2	学連派遣			松本秀峰	勝ち越せるよう頑張ります！
こいらい しょうけい 小祝 良介	経済	2	SFC高コーチ			慶應義塾湘南藤沢	絶対4連覇します！
すずき あきら 鈴木 慧	法律	2	塾高コーチ			慶應義塾	一所懸命頑張ります
のだりょうたろう 野田遼太郎	政治	2	マネージャー			慶應義塾	万全な準備が最高の勝利を呼ぶ
すぎた まさとら 杉田 雅虎	商	1	スタッフ			慶應義塾湘南藤沢	絶対に勝つ





部長
大谷 俊郎
慶應義塾大



監督
村林 祐子
慶應義塾大



H・コーチ
荘司 良彦
慶應義塾大



S・コーチ
木塚 孝幸
慶應義塾大



C・コーチ
伊藤 恵梨
高知大



学生コーチ
亀田 葉月
雙葉文 4



主務
松浦 紗季
慶應義塾女子
文 3



12 わだ
和田かおる
(理工 3)

- ① F ② 158
- ③ 東邦大附属東邦
- ④ 代々木での最後の早慶戦、自分に出来ることを全力で頑張ります！



13 やまざき
山崎 多絵
(政治 2)

- ① F ② 167
- ③ 日比谷
- ④ 精一杯頑張ります。



14 やまざき
山崎結香子
(文 2)

- ① F ② 162
- ③ 湘南
- ④ チームの力になれるよう頑張ります。



15 しげまし
重増 志保
(環境情報 2)

- ① F ② 163
- ③ 玉川聖学院
- ④ チームのために出来ることを精一杯頑張ります。

主将



4 みつだ
光田 美波
(政治 4)

- ① F ② 164
- ③ 岡山朝日
- ④ 四年間の集大成、全身全霊で頑張ります。



5 むらい
村井 睦
(商 4)

- ① G ② 160
- ③ 慶應義塾女子
- ④ ラスト早慶戦頑張ります！



16 うめき
梅木 理沙
(経済 2)

- ① F ② 166
- ③ 慶應義塾女子
- ④ 代々木体育館で早慶戦ができることに感謝しつつ、頑張ります！



17 ころすえ
頃末 沙樹
(理工 2)

- ① G ② 156
- ③ 慶應義塾湘南藤沢
- ④ 毎年恒例で有名な憧れの早慶戦、チームのために全力を尽くしたいです。



6 いそべ
磯部 紗希
(文 3)

- ① G ② 157
- ③ 國學院久我山
- ④ 出来ることを全力でやり抜きます。



7 とよむら
豊村 さえ
(商 3)

- ① C ② 170
- ③ 慶應義塾ニューヨーク学院
- ④ 楽しんで頑張ります！



18 しらふじ
白藤 優果
(理工 1)

- ① G ② 145
- ③ 東京学芸大附属
- ④ 一年生なりにチームに貢献できるように頑張ります



19 うめだ
梅田 香
(環境情報 1)

- ① C ② 174
- ③ 慶應義塾ニューヨーク学院
- ④ 少しでもチームに貢献出来るように頑張ります。



8 たかせ
高瀬 かりん
華琳
(経済 3)

- ① F ② 166
- ③ 広尾学園
- ④ 伝統の一戦で活躍します！



9 もりかわ
森川 ゆいか
唯加
(経済 3)

- ① G ② 157
- ③ 慶應義塾女子
- ④ チームに貢献できるように全力で頑張ります！



20 あだち
足立 はな
(法律 1)

- ① F ② 164
- ③ 聖心女子学院
- ④ まだまだ至らない点ばかりですが、自分出来ることを見つけ、積極的に動きたいです。



21 こふくがわり
小福川莉奈
(法律 1)

- ① C ② 169
- ③ 慶應義塾ニューヨーク学院
- ④ 伝統のある戦いの場で少しでもチームの力になりたいです。



10 あべ
阿部真璃奈
(経済 3)

- ① F ② 162
- ③ 立教女学院
- ④ チームのために自分に出来ることをやり遂げます！



11 いのもと
井ノ本雅子
(商 3)

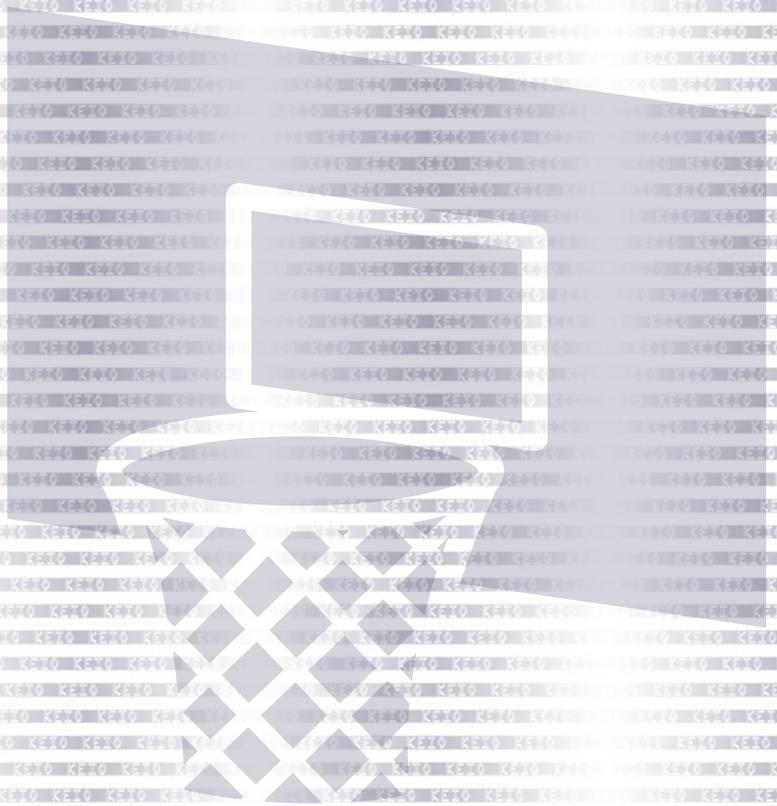
- ① G ② 159
- ③ 四天王寺
- ④ 全力で戦います！



22 すとう
須藤 史帆
(文 1)

- ① F ② 162
- ③ 平塚江南
- ④ チームのために自分の出来ることを頑張り、声を出して盛り上げていきたいです。





主将
トカチヨフ サワ

慶大



早大

主将
森井 健太**——伝統ある大学の主将となった今、その立場についてどう思いますか？**

森井 主将になって早稲田の伝統を強く感じています。去年は、主将の河合さんがチームをよく引っ張ってくれました。僕は、言葉で伝えることが河合さんほど上手くないので重圧を感じていますが、自分の形でチームを引っ張ることができればいいと考えていて、そこを今年1年頑張っていきたいと思っています。

トカチヨフ 僕らの代には胸を張って主将の座に手を挙げるような存在がいまありませんでしたが、最終的に僕がなりました。森井の言っていることと同じですが、今までずっと先輩方が積み上げてきたものがあるので、今年も早慶定期戦があり、またリーグ戦では昨年の2部降格から今年は1部復帰を果たさなければならないという使命感もある中で、主将として出来ることはやっていきたいと思っています。

——森井選手は不在でしたが、先日の六大学リーグ戦での早慶戦では慶應が圧勝したことは？

トカチヨフ 慶應的には、少ない練習の中で自分たちがやろうとしてきたことが少しずつ出来てきていますが、そこに満足しているわけでは全くありません。もちろん森井が居なかった訳ですから、油断せずに詰める部分は詰めて、早慶定期戦までの残された時間で、どれだけしっかり突き詰められるかという所で頑張っています。

——不在の間Bリーグで経験を積んだ森井選手ですが、どういった経験になりましたか？

森井 プロの試合に出場したり、練習に参加する中で、的確な状況判断とか、一つ一つのプレーを丁寧にやるのが求められ、質の高さを経験できたということはとても大きかったです。それをチームにどう還元して活かしていけるかということが、これからのカギだと思います。六大学で慶應に負けたということは聞きましたが、慶應がとても良いバスケットをしているということは知っていたので、1部2部の違いはありますが、慶應には絶対に負けられません。そこは頑張りたいです。

——トカチヨフ選手は、同年代がプロで活躍する姿には何か感じるものはありましたか？

トカチヨフ 正直そういう所はあまりありません。慶應

は慶應でやるべきことがあり、目標は明確です。それをやるだけだと思っています。周りを気にせず、本当に自分たち自身との戦いだと思っているので、自分たちがしっかりやることをやれば結果は必ずとついてくると思っています。もちろん早稲田には森井のようにBリーグで強化指定に選ばれた選手もいるので、まったく油断はできないと考えています。

——お互いのチームに対する印象は？

森井 慶應は粘り強いディフェンスや、ルーズボールへの喰らいつきなど、そうしたシーンで食欲に絡んでくるチームだと感じています。早い展開という面では早稲田も一緒だと思いますが、その中でサワや木村、高橋という良いビッグマンが揃っていて、下級生ながらガード陣にも上手さがあります。バランスが良いチームであると見ています。そういう部分を見ると、これから早慶定期戦に臨む上で自分たちをもっと高めていかなければ勝つことができないと思います。

トカチヨフ 早稲田は、やはりガード陣が本当に優れています。ゲームコントロールや周りの選手を上手く活かすという部分に長けているチームだと思います。気を緩めずにディフェンスをしないと、すぐに点を許してしまうことになります。更に、優れたシューターも多いです。その中でどれだけ自分たちのディフェンスができるかということが大事になると思うので、かなり気を引き締めて臨まなければならないチームだと考えています。

——2人の間の面識は？

森井 高3の時のウィンターカップで僕が負けているので、それが1番のインパクトですね(笑)。

トカチヨフ 逆にそこだけだね。

森井 その前の全国大会まで、東京からは京北と八王子が出ていて、國學院久我山(以下、久我山)のことは名前くらいしか知らなかったです。

トカチヨフ ウィンターカップでは、東京からはだいたい2チームしか出られないんですけど、僕の代のときは京北がインターハイで優勝していたので、ウィンターカップでは3チーム出られることになりました。開催地枠で久我山の出場が決まり、ベスト8決めで洛南と当たるという組み合わせでした。

——当時戦った時のお互いへの感想は？

トカチヨフ めちゃくちゃ上手かったですよ(笑)。ただ洛南のあの代は「森井だけ気を付ける」という感じだったので。だから「案の定!」という感じですかね。あの時はゾーン(ディフェンス)が効いたよね？

森井 あー、シュートが入らなくて、それで負けました。それにリバウンドとかは…久我山は全員デカかったよね？

トカチヨフ 全国で2番目とかの平均身長だった。みんな180以上。
森井 みんな走るし、良いチームだなと思って。油断していた訳ではなかったのですが、隙を見せたかなと思いますね。ただ、そこからサワの事はちょっと意識し始めましたね。

——昨年の早慶定期戦を振り返って？

森井 早稲田としては、4年生が教育実習のため出場が出来なくて、僕とか新川とか石原といった3年生が中心となって出たんですけど、練習から少し気が抜けていたというか、しっかり試合に向けての気持ちやコンディションが乗っていなかったのではないかと思います。みんなも「そこが原因では?」と言っていました。4年生の力・存在というのは、早慶定期戦において本当に大切だと思います。僕たち今年の4年生は、そういった意味で試合だけではなく、試合までの過程を大事にしてやっていきたいと思っています。

トカチヨフ 僕は、全部の早慶戦を結構鮮明に覚えています。去年は、「絶対に早稲田が勝つだろう」と言われていて、六大学の時も負けていましたし、メンバー的にも早稲田の方が揃っていて、チームは正直みんな不安で、それでもみんなでスカウティングやミーティングを死ぬほどやって徹底的に分析し尽くして、その1日に全てを賭けて臨んだ戦いでした。最初は相手のディフェンスが凄くて全然通用せず、グダグダなバスケットになってしまいましたが、試合が進むにつれ、シーソーゲームとなり、最後は「勝ちたいと思う方が勝つ」と信じて粘りました。その結果、勝利をもぎ取ることが出来たので、僕の記憶には鮮明に残る試合でした。

——4年生対談の中でも「サワは早慶戦男です」という声が多かったのですが、どう思いますか？

トカチヨフ 僕は、本当に早慶定期戦が大好きです。やはりスポーツというのはお客さんが来て、観て、応援してくれるからこそ盛り上がり、選手もやる気になります。それが、スポーツの醍醐味だと思っています。日本のバスケットの環境で、特に大学で、それを実現する機会はなかなか無いのが現状です。でも、だからこそ早慶定期戦はとても特別な舞台であって、僕はその1日を1年中楽しみにしています。その日に観客を見ると必然的にテンションが上がってきて、本当に普段では絶対に有り得ないような状態になるほどです。早慶定期戦には、本当に特別な思いを抱えていますね。

森井 僕もやはり(早慶定期戦の雰囲気は)すごいと思います。去年の早慶定期戦では、終盤にスリーポイントを決められたのですが、それが結構僕としてはダメージが大きかったです。結構ギリギリだったよね? 24秒、そういう場面でした。

トカチヨフ ギリギリというか、プザーピーター。

森井 そういう場面で決められたというのは、チーム全体としてもダメージが大きかったと思うし、サワも言っているように、早慶定期戦という試合は、大学バスケットの中でも、恐らく観客が一番入ると思うし、多分インカレの決勝より入るよね？

トカチヨフ 代々木が満席になるくらい。

森井 そういう中出来ることはなかなか無いので、まず楽しみたいですね。勝ちたいというのは当然ですが、その舞台でプレーできることを

感謝したいと思っています。でもそんな舞台で活躍できるサワは、「何か持っている」と思いますね。

——去年のそのシュートを決めた瞬間はどんな気持ちだった？

トカチヨフ まあ正直、運です。でも、僕はなんか早慶定期戦になると有り得ないようにシュートが良く入ったりしていて、それはやはり応援して下さるみなさんの思いがボールに乗り移り、ボールが自然とリングに吸い込まれるのではないかと。そこは僕の技術ではなく、応援してくれる人の思いのお陰なのではないかと思っています。自分でも不思議です。僕自身も驚くほどでした。

——37-37というイーブンの通算成績で早慶戦を迎えることに対しては？

森井 僕が入学して1度も勝っていないので、それも含めたくて「絶対に負けられない」というように思っています。4年目で絶対に勝ちたいという気持ちは、下級生含めて全員が思っていると思うし、僕もそう考えています。

トカチヨフ この37勝37敗にするまで本当にすごく険しい道のりで、先輩方が積み重ねてきたものが今こういう結果に繋がっていて、慶應の勝ち越は26年ぶりとなるので、多分僕たちだけではなく、すべてのOBの皆さんもそれを望んでいると思うので、そのすべての思いを背負って戦うのだと考えると、絶対に負けられないですね。

——自分のチームのキーマンは？

森井 僕はやはり4年生だと思っています。誰というのではなく、昨年を振り返ると4年生全員の力が必要だと思ったし、それは、出ている出していないに関わらずチームを1つにするとか、チームを盛り立てるとか、そういったすべての面で4年生が自分の力以上のものを出していければ勝てるのだと思っています。

トカチヨフ 1人1人がチームの勝利を思い、自分に何ができるのかということを決める時期から考えています。早慶定期戦のあの舞台に立った時には、「勝利のために何ができるのか」ということをみんなが考えて行動すると思うので、慶應は恐らく全員が主役になるのだと思っています。慶應は特に選手層が薄いので、1人が欠けてしまうとチーム全体が崩れてしまいます。なので、全員がキーマンです。

——早慶戦に向けて意気込みをお願いします

森井 絶対勝ちます!

トカチヨフ 同じです!

※この対談は4月8日に行われたものです。



主将 光田 美波
副将 村井 睦

慶大



早大

主将 小島由希子
副将 林 靖子



——昨シーズンを振り返って？

小島 リーグ戦は優勝できたのですが、5月のトーナメントとインカレで悔しい思いをして日本一という目標を達成できなかったのが、去年の反省を生かした上で今年の試合に臨みたいのです。

林 プレーの面で言うと、1年間ずっとボックスアウトを徹底しようと言っていたのですが、全然リバウンドが取れずに修正できないまま、最後のインカレまで来てしまったというのが反省点でした。

光田 一昨年3部に上がって、昨シーズンは初めて3部の舞台で戦ったのですが、やはり3部相手になかなか勝つことができませんでした。トータルで2試合しか勝てなくて厳しい試合が続いていたのですが、最後の入れ替え戦では勝てたので、3部残留という目標は達成できました。今年は引き続き3部残留、そして4部との入れ替え戦に行かないことを目標にしています。

——昨シーズンお互いのチームを見て感じたことは？

村井 私たちのチームは全然強くなって、早稲田はトップというか、手の届かない存在なので、早慶定期戦ができるのは光栄なのですが、ちょっと手加減してほしいなと思ったりはします(笑)

小島 慶應とは東京六大学対抗戦と早慶定期戦で戦う機会があるのですが、いつも元気いっぱいチームだなと思っています。自分たちは落ち込んでしまうときもあるのですが、慶應はどんなときでも向かってくるというイメージがあります。

光田 私たちは早稲田の全部をお手本にしたいのですが、人数が多いことがうらやましいですね。私たちは練習で5対5ができないときもありますし、応援も人数がいたほうが絶対支えになるじゃないですか。それが本当にいいなと思います。

——新チームの発足から今までを振り返って？

小島 始まってまだ1ヶ月くらいしか経っていないのですが、けが人が多くて、この前の春合宿では、それこそ5対5も際どい人数で練習していました。そんな状況でも、下級生がすごく頑張っていて4年生を支えてくれたので、そういった面では、良いスタートが切れているのではないかなと思います。

林 新チームが始まってまだ少ししか経っていないのですが、後輩の力はやはりとても大きいなと感じています。

光田 私たちは新4年が3人しかいません。下級生が8人いるのですが、やはり下に支えてもらわないと3人では引っ張りき

れないと感じているので、今年はまず3・4年がまとまって引っ張ろうとはしています。いろいろと試行錯誤していますが、難しいですね。

——主将、副将に就任した感想は？

村井 私は、今まで主将や副将になったことがなく、チームを引っ張るのはあまり得意ではありません。どちらかと言うと、後輩と同級生のようにになってしまうタイプなのですが、実際に副将になってみて、副将としてあるべき姿を考えるようになり、責任感が増しました。

林 高校でも同じ副将という立場を経験したのですが、大学となると規模も違いますし、学年の数も1学年多いので、上に立つという重圧に押しつぶされそうになります。でも、主将がしっかりしているのでも、まだ何もできていないけれど、これから作り上げていけたらいいと思っています。

小島 小中高と主将をやってきて、その時は先頭に立ってプレーする事でチームを引っ張っていたのですが、大学ではあまり試合に出ていないので、その中でどういう風に引っ張っていったらいいのかという不安がありました。林にしっかりしていると云われたのですが、自分には足りないところが沢山あるので、みんなで協力してチーム作りをしています。本当に自分は「周りに恵まれているな」と感じています。

光田 同期が3人で、主将・副将・学生コーチとみんな其々の役割があり、大学で4学年を引っ張ることが最初はすごくプレッシャーでしたが、同期2人がいて下級生も支えてくれるので、新チームが始まって4ヶ月経った今ではだいぶ慣れてきました。

——チームの雰囲気は？

小島 自分たちは、今オフェンスやディフェンスに約束事をつけていなくて、「お互いにやりたいことを喋りながらプレーす

る」という感じで雰囲気を作っています。その中にはミスもあつたりしますが、みんながのびのびとプレーできる環境を作れているので、新チームが始まったばかりとしては、すごく良い状態かなと思います。今後は、精度を上げていくことが大事になってくると思いますが、いろいろな新しいプレーが個人から生まれているので、良いなと感じています。

林 少しずつ練習試合が増えてきて、チーム練習の中だけでは出ないプレーも個々人に見られるようになってきていて、「この子はこういうプレーができるんだ」という新しい発見があります。みんなが楽しくできているという雰囲気が一番あって、その中で厳しさも求めているので、メリハリあるチームになっているのではないかと思います。

光田 練習中にお互いの意見を交換することや、お互いに厳しくやることは徹底できていると思いますし、ミーティングを去年よりも増やして学年間や学年毎でも、良いコミュニケーションができていますので、雰囲気は良いなと感じています。

村井 去年よりも少し上下関係にとらわれず、意見を言い合えるチームにすることを目標にしている、それが達成できているので、下級生からも自由に意見が出ますし、そういう面では良い雰囲気で練習できていると私も思っています。

——オフの日もチームメイトと過ごすか？

光田 私たち同期3人は趣味や性格がバラバラなので、オフの日同期3人で遊ぶことはそんなに多くないです。

村井 バイトがあったり、彼氏がいる時期がみんな違ったりで(笑)、遊べないことが多いです。1人映画とかします。

光田 1人が好きな3人なので(笑)。

村井 1人でお風呂も行きますし、買い物もします。結構何でも1人でやっちゃいますね。

小島 自分たちも同じような感じですが、バイトをする子は、オフの日バイトを入れていますし。でも、たまにみんなの意見が一致して、突然「ここ行こう！」となることはあります。

林 予定もなく、急に(笑)。

小島 「この映画観たい!」「えっ、私も!」という感じで、突然行ったり。前々から予定を合わせて、というのはあまりないです。その時その時、行き当たりばったりという感じで、オフは過ごしています。

——昨年の早慶戦を振り返って？

村井 1年上にエースのような存在の主将がいたのですが、すごくマークされてしまって「オフェンスをさせて貰えない」というイメージでした。

林 「やりたいことをやらせない」というつもりでやっていました。

小島 スリーを狙っていることがわかっていたので、そこだけはやらせないと思っていました。

村井 そこだけが唯一狙える得点だったのに…

光田 だから結構苦労したよね。

——今年の早慶戦で改善したい点は？

光田 今年は、誰がエースというよりは、それぞれが武器を持っていてチームで頑張るといった形態なので、5人がそれぞれ得意なシュートを打ったり、ドリブルで攻めたりすることで、1点でも多く得点できたらいいなと思っています。

林 誰が出て「相手がやりたいことをやらせない」ということが、去年は徹底できていなかったというか、波があったので、今年は全員がそれをできるようにしたいです。

——大観衆の前でも緊張しないタイプか？

村井 代々木第2体育館という場所に、慣れてなさ過ぎて緊張します。普段の試合会場はどちらかという観客とコートが近いのですが、代々木第2体育館は距離が遠いんです。照明もすごく、床から光が跳ね返ってきます(笑)。

光田 観客が360度について、しかも1面であれほど大きい代々木第2体育館は、普段試合を行っている体育館とは大違いなので、毎年緊張しますね。アップの時ですら、みんなザワザワしています。

小島 緊張はあまりしないのですが、本当に全員で出るという感じなので、1年生の頃など試合に出慣れてないときは、緊張しました。上から観客に見下ろされる感じが(笑)見られているから緊張するというよりは、会場の雰囲気だと思います。今は、だいぶ慣れてはきましたが。

林 歓声がすごいからね。

——緊張をどのように乗り越えて試合に臨むのか？

光田 同期や後輩をバーンと叩いたりして、緊張をほぐすしかないという感じですね。

小島 始まってしまえばやるしかないの、とにかく体を動かすという感じです。

——早慶戦に向けての意気込み？

村井 100点ゲームにさせないことです。それと、全然身長が違うのでゴール下でたくさん点を取られてしまうことが予想されます。そこをできるだけ守ることを徹底したいです。最後の早慶戦なので「楽しくやりたいな」と思っています。

光田 点差をつけられても、何か収穫のあるゲームにしたいです。「自分はこれができた」というものが残せると良いと思います。

林 出場する一人一人が自分の役割を全うして、コートの中でも外でもコミュニケーションを取りながらやっていけたらと思います。

小島 チーム一丸となって、全員で戦える試合にしたいです。

※この対談は3月18日に行われたものです。

木村 能生
高橋 晃史郎
堂本 阿斗ディーン

慶大

×

早大

石原 卓
新川 敬大
北代 智樹

——新チームで初の早慶戦（第13回東京六大学リーグ戦）となりましてがいかがでしたか？

石原 早稲田として他のチームと対戦するのは今日が初めてで、主力の新川や森井もいない中、あまりまとまりの無いチーム状態で試合を迎えることになりました。やはりそれが試合にも出てしまった結果です。試合が慶應のペースでいってしまって、みんなの気持ちが下がり、早稲田らしいところがあまり出てこない状態で終わってしまったのかなと思います。

新川 僕は試合に出ていないので何とも言えないのですが、試合に出なくてウズウズしていました。

北代 まだチーム練習を始めて2週間弱しか経っていない中、システムなどしっかりしていない状態で臨むことになり、そこに上手いかないプレーのフラストレーションが溜まり、それがディフェンスにも影響したのかなと思います。早稲田らしさは、やはりディフェンスだと思うので、そこが切れて負けてしまったのかなと思います。

木村 慶應は早稲田と違って選手層も薄く、その中で今（3/18時点）、高橋も居なくてすごくきつかったということが1つあります。ただディフェンスを我慢して我慢してやっていけたということが、良かった点としてありました。昨日まで1週間練習していなかったのですが、そんな中でもできることはできたのかなと思います。反省点も見つかったので、そこは早慶定期戦に向かってしっかり修正してやっていきたいです。

堂本 今日は結果的に勝つことができましたが、やはり早稲田は攻守の切り替えが速いと思いました。そこでは完全に負けていたなと。あと、すごく良い新人が入っていて、今後とても良いチームになりそうで、怖いと思いました。

高橋 今日の試合は慶應のシュートが終始入って、それで勝ったと思うのですが、早稲田はオフェンスもディフェンスも比較的上手くいってなくて、去年の方が強かったかなという印象を受けました。ただ、やはり一人ひとりの能力やポテンシャルは高いので、それが今後脅威になると思っています。今回は勝りましたが、3ヶ月後の早慶定期戦ではどうなるかわからないので、気を引き締めてこの3ヶ月間しっかりやっていき



たいです。

——お互いのチームの印象は？

高橋 早稲田は、爆発力があると思います。一人一人の能力が僕たちよりもかなり高いと感じていますが、今日の試合ではそこが上手くかみ合っていなかったのではないのでしょうか。かみ合った時に恐ろしいチームになると思うので、本当に脅威ですね。

石原 慶應はすごく思い切りが良くて、難しいことを考えず、単純に空いたら打つということが良いと思います。逆に早稲田は、作って作ってノーマークを見つけてシュートを打とうというチームです。慶應は、いい意味で単純にバスケットをしていると思います。それを今日止められなくて負けたと感じているので、早稲田に無いものを慶應は持っていると感じます。

——新体制で変わったことは？

新川 早稲田は、特にないですね。

石原 そういうとこを、特に無いと言ったらダメでしょ（笑）

新川 いや、本当に特に無いんですよ。

高橋 慶應は、昨年から割と学生主体でやらせていただいていたので、今年はより僕たちが主体的に4年生中心でチーム作りをしています。昨年は割とバスケットの方針とかは、コーチとかから「こういう風にやって行こう」というのを言われていたのですが、今年はバスケットの所もオフの所も、練習の日程も自分たちで考えてやっているの、より一層に学生主体というのが今年のチーム体制です。

木村 去年のガード陣は最上級生でしたが、今年はセンター陣にしか最上級生がいません。そういう点で、チームのペースが悪い時にどうするのか、流れを読むのがすごく難しい。その点は、すごく苦労しています。

——早慶バスケット部間で何か関りはありますか？

石原 はい。ありません。

一同 （笑）

石原 なんかない？

高橋 就活の訪問先で、ちらほら見かけるのはあります。「あれ、あいつ見たことある」と思ったら早稲田だったみたいなの。

木村 サワ（トカチョフ）とは仲いいみたいですね。

石原 そうですね。僕たちもサワも高校は東京で。そういうところではありましたが、まあ最近は無いです。

新川 この3人は、国体で一緒だったので。

高橋 ここ（高橋・堂本）は、神奈川国体です。

木村 自分だけ京都で、主将の森井は知っていましたけど、それくらい

です。

石原 あんまり遊びに行ったりはしたことないです。

高橋 なんで、今年はやります！

石原 バチバチしよう。

高橋 今年こそは。去年もやるとか言っていたけど、早慶飲みを実現させます。

石原 絶対しないよ。

一同 （笑）

——プライベートは充実していますか？

新川 充実していますよ。

石原 お前だけだろ（笑）

北代 早稲田の4年生は、プロに行く人と就活する人が分かれていて、プロに行く人はバスケを頑張るのですが、就職する人は自分も含めてバスケと両立して空いている日にやらなければ疎かになってしまうので、コートの上ではバスケに集中して、一歩外に出たら就活をやっていたいなと思っています。

新川 僕はちょっと怪我をしていて、将来も就活をしない考えているので、僕はずっとバスケの事しか考えずにこれからもやっていこうと思います。今はちょっと自分の体と向き合う期間というか、将来にとって大切になる時期だと思うので、すごく良い時間を過ごせています。

石原 僕は、飲み会に行っています。いっぱい。

一同 （笑）

石原 いやでも本当に。バスケは好きでやっていますが、やっぱりきついことも多いので、どうやってリラックスするかって考えると、自分の中ではお酒大好きなので、お酒大好きな早稲田のメンバーで飲みに行っただけで気分転換をしています。というところで、プライベートは充実しています。

堂本 この前のオフは、みんなで河口湖に行きました。下級生はみんなでお酒を飲んでいる、僕らはどうしようかとなった時に、河口湖が一番近いという事で河口湖に行きました。

石原 仲良いね。

高橋 逆に飲み会とかはないです。

新川 いや、俺らもないよ。全員集まることあんまりくない？

北代 出かけても、誰か一人いないみたいなの。それで一回も揃わない。

——昨シーズンの早慶定期戦を振り返っていかがでしたか？

石原 昨シーズンは、色々ありました。前日11時くらいに寝るつもりでいたんですが、その前に学生コーチの方からももらったモチベーションビデオを観てテンション上げてから寝ようと思って、みんなの良いプレーとか熱いプレーを観てたら、興奮しちゃって3時くらいまで寝付けなくなりました。「このままじゃ寝られない」と思って、お酒を飲んで4時に寝たんですよ。でも次の日の朝が7時起きで、当然寝不足となっていました。結果、終盤3ピリくらいに足をつっちゃって、そこから試合に出られなかったという苦い経験でした。

堂本 ズルいでしょ。それは。

高橋 いやいや、それはただ単純に言い訳でしょ。

一同 （笑）

石原 そういうのもあって去年は…

高橋 実際のところ？

石原 去年の早慶定期戦は、楽しかったですね。

新川 早慶定期戦のあの独特な雰囲気は、個人的には好きで、勝敗は別ですけど、去年は慶應の勢いに負けました。慶應は、早慶戦に本当に強いので。

北代 早慶定期戦では、僕らが入ってから1度も慶應に勝ってなくて、本当に3度目の正直という、みんな強い気持ちで臨んだのですが、みんな言っているように、早慶定期戦になると慶應はやっぱり強いなとか、気持ちとか会場の雰囲気にのまれて押されてしまったかなというイメージです。

高橋 去年は、六大学でコテンパンに負けてしまって、そこからチームが「流石にヤバいぞ。」という感じでまとまって、早稲田のスカウティングとかを重ねて。自分たちの春シーズンの目標は、早慶定期戦勝利というのを掲げてやってきたので、とにかくそこに向かって頑張った結果、試合でもいい感じに進んで会場も味方してくれて。入るはずの無いシュートが入ったりして、勝てました。

——どんなシュートでしたか？

木村 サワのやつだよ？

新川 訳分からなかったです。

高橋 あれを決められるのが、サワなんです。お祭り男なんです。東京国体でも途中参加でチームに入ったのに、全部オイシイ所は持って行きましたし。

一同 （笑）

堂本 去年はチームとして強い思いがあって。というのも、勝てば総勝敗数が同じになるって試合でしたから。そういう思いもあったし、その前の4年生が抜けてだいたいの戦力が落ちてしまったこともあり、オフを返上して練習を重ねました。色んな辛いことを乗り越えての1勝だったので、僕的には本当に大きな1勝でした。

木村 チームの事は2人が言ってくれたので、個人として言うと、自分は去年チームの足をすごく引っ張ってしまったので、勝てたのは良かったんですけど、その点で個人的には本当に悔しい早慶定期戦でした。

——この学年は勝ったことしかない慶應と負けたことしかない早稲田という学年ですが、どう考えていますか？

新川 僕たちは早慶定期戦の勝利の喜びを知らないんですよ。もう今



年こそはって感じです。それに尽きます。

堂本 負けるのが怖いんです。逆に。

木村 今年も勝ちます。

新川 本当に萎えるよ、負けると。

高橋 なんかもちょっと違う台詞ないの？ 負けるのが怖いっていうのは、なんか嫌だ。

堂本 いや、なんかほら、負けたことが無いからっていう。

木村 今のは無しで、僕の言ったことだけで（笑）

石原 これはもう、チームワークでは勝ってるわ。

——相手の警戒している選手は？

石原 慶應は、やっぱりインサイドだよな。

北代 そうですね、インサイドだと思います。

石原 慶應はサワを筆頭に、身長が高く動く選手が多いので、自分で言うのもなんですが、早稲田のウィークポイントは背の小さいインサイドなので、慶應の誰を警戒しているかというより、インサイドをきっちり止めて、こっちの流れにどれだけ持っていけるかだと思います。

堂本 こっちはアウトサイド？

木村 そうですね、逆にインサイドで負けてしまうと厳しいので、そこは絶対に勝てるようにしていかないといけないと思います。早稲田はアウトサイドにすごい選手が多いので、やはり怖いですね。

高橋 個人的には全員怖くて。それぞれが基本的にプレーのキャラクターが違うし、火が付いたら止められない選手が多いというのが素直な印象です。全員脅威だだと思います。

——自分達のチームのキーマンとなる選手は？

新川 僕は、石原だと思います。去年は彼が足をつって負けたので。

石原 いやでも、正直最上級生になって思うのは、4年生になると最後の年だから気合が入るけど、やっぱり後輩は「もう1年あるし」という部分があって。自分もそうだったけど。ちょっと泥臭さというか、ガチになれない面があって。誰かというより、4年生として後輩の気持ちをどれだけ上げさせるかということが、早稲田ではカギになると思います。

新川 後輩が、全員キーマンだな。

石原 後輩が全員キーマンというか、4年生は全員やる気に満ちているので、その気持ちのギャップをどれだけ埋められるかというのが大事になると思います。

北代 個人的には、森井がチーム練習に参加するかわりに、一步進んだステージで活躍している中、4月から合流して彼が中心になり、プロで味わってきたレベルとかを僕たちに還元してくれて、さらに一步高いレベルで練習してあげたいと思っています。そういう意味では、主将の森井がキーマンになるかと考えています。

高橋 サワって言いたいところではあるのですが、個人的には木村がキーマンだと思います。去年の早慶戦では活躍できていませんでしたが、練習で調子がいい日は本当に止められないので、その日を4年生の意地で早慶定期戦の日を持ってきてくればいいんじゃないかと考えています。

木村 自分も、自分で。僕もそれを言おうと思っていて、自分がどれだけやれるかがカギになってくると思います。

高橋 「早慶定期戦あるある」、空回りするやつ。

木村 いや、空回りだけはしないように。去年は、それで空回りしたので。それだけはしないように、そういう意味でもキーマンです。

堂本 僕も木村と言いたいとことでしたけど、2人が言ったので僕はサワで。先ほども言ったようにお祭り男で、早慶定期戦にける思いは人一倍あると思っていて、それが主将になった今、責任感も増してどこまでやれるかっていうのが本当にカギだと思っているので、期待したいです。

——勝敗数をタイとして迎える早慶定期戦となりますが、意気込みは？

石原 言ってやれ副キャプテン2人！

新川 なんでそこで自分最後…

石原 最後きっちり締める！

新川 そうですね、個人的には勝敗数で慶應には抜かれたくないので、チームの為にも、OBの方の為にも、早稲田大学の為にも勝ちたいという思いが強いです。

北代 先輩方であったり、OBの方が築き上げて下さった今の勝敗数でもあって。そんな中去年並んでしまって、ここが節目じゃないですけど、ここを託された代は僕らだけだと思うので、しっかり責任を持って勝ちに行きたいと思います。

石原 タイなんで今。逆にここ1個勝てば「お、この代やるじゃん。」「終わりよければ全てオッケー。」みたいな感じになると思うので（笑）。早慶定期戦は大学を背負ってバスケットをするので、自分たちだけの問題じゃないと思います。そういう所も気にしながら勝ちたいです。

堂本 こんなに歴史を感じながらバスケットができる大学も慶應と早稲田だけだと思うので、まあ歴史に名を刻むじゃないですけど…

高橋 歴史を感じながらバスケットしてるの？

一同 （笑）

木村 それ思ったよ。

高橋 歴史を感じながらバスケットするってどういうこと？

堂本 こんなに2校間で交流のある大学も無いし、これだけ一つのスポーツで熱くなれるのもここだけだとすごく感じるの、最後しっかり勝って4年間を終えたいと思います。

木村 自分達は4連覇したら60年ぶりとかで、勝ち越せるのもすごく久々でかなり期待されていると思うので、そういう意味でも自分たちの代で4連覇して勝ち越してというのが、夢じゃないですけどやってみたいという気持ちすごく強いです。絶対に勝ちたいと思います。

高橋 自分たちの代で4連覇というのが懸かっていて、僕たちは三田会という存在に強く支えられてバスケットが出来ているので、この歴史ある早慶戦で勝って恩返しをするという意味でも4連覇して、戦績も勝ち越せるように頑張ります。

※この対談は3月18日に行われたものです。

